

# 第6回 市長とお茶カフェ・トーク

平成26年10月18日(土) in 女性会館(第41集会室)

平成26年度 第6回の「市長とお茶カフェ・トーク」は、  
“静岡医療コミュニケーション研究会（SMC）”の皆さんと市長が  
“より患者と医療関係者との関係を深めるために”  
をテーマに意見交換をしました。



## 【参加者】

静岡医療コミュニケーション  
研究会の皆さん（7人）

←【参加メンバー&市長】

## 【静岡医療コミュニケーション研究会】

平成11年4月に発足。患者と医療者との相互理解を深めることを目的として、模擬患者（SP）の養成と派遣を行っているボランティア団体。

模擬患者（SP）とは、医療コミュニケーショントレーニングの場で、事前に設定された症状や家庭環境等の患者になりきり、トレーニングの相手である医療者からコミュニケーションを受ける患者役のこと。

## 【静岡医療コミュニケーション研究会】

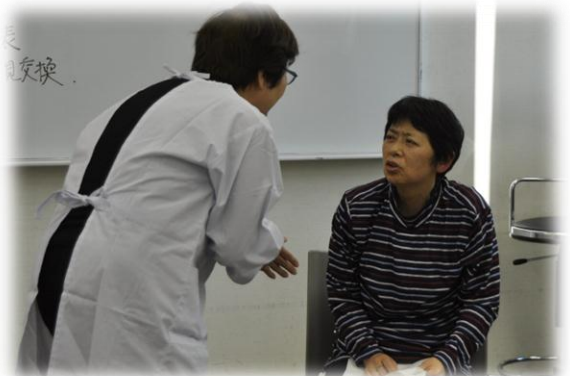
模擬患者の設定には、年齢、家族構成、職業、職場環境、病気などの症状、その場面までの出来事など、細かく人物設定を行う。なので、胃が痛い患者さんを演じる時は、本当に胃が痛くなってしまう。

また、入院患者ならパジャマを着たり、スリッパを履いたり、化粧や口紅をしなかったりすることで、リアリティを追及している。他にも、ギャラリーがいる前でセッションしなければならないので、患者役の表情が見えるように椅子を配置したり、研修相手が緊張しないように椅子の向きを変えたりすることも大切にしている。

## 【市長】

迫真の演技で驚いた。

完成度が高く、人物設定も細かく、患者さんになりきることの大変さを、デモンストレーションを見ることで分かった。



デモンストレーションを披露していただきました。

### 【市長】

市役所には様々な市民の方がいらっしゃる。そういう場である市役所こそ、臨機応変に対応できるコミュニケーション能力を備えた人物が必要だと思う。これから市役所の対応機能を向上させたい。

そのためにも、市役所サービスの一環として総合コンシェルジュのような制度が各区役所にあってもいいかもしれない。この場合のコンシェルジュは、かなり知識やノウハウがないと対応できないと思う。



### 【静岡医療コミュニケーション研究会】

継続することが大切。研修を1回受けただけで「コミュニケーションの勉強をした」とはならない。継続してやらないと成果は出ない。

私たちの活動をもっと知ってもらいたい。病院の現場に良き理解者がいないと研修をやってもらえない。病院としての意識が「コミュニケーションは大事だ」となれば、何回も来てもらいたいとなるが、病院によっては1回で終わってしまう事もある。是非、続けてもらいたい。

私たちメンバーは、研修に参加していただいた方に「ためになった」と言ってもらえることが生きがいになっている。お金のことを考えてやっていたらできない。

### 【市長】

静岡市の事業からはじまった活動が、ここまで頑張ってくれて嬉しい。今後は、活動で得たことを社会還元してほしいし、静岡市に対してもしてほしいので、これからも皆さん協力して、会を存続させてください。

今日はとても良いヒントをいただきました。ありがとうございました。

